

主な意見要旨		対応方向
プラン全体・人口ビジョン編		
1	札幌は人口が減少しているという話だが、近隣市町村の人口は、どのような状況か。	近隣市町村においても将来的に人口が減少していく傾向は本市と同様になります。
2	子どもを欲しくないという声は周りで耳にする。漠然とした世の中への不安から来るものだと思う。産まれてくる子どもが可哀そうといった意見もある。	Well-being指標を活用した取組の推進や目指すべき将来像、子育てのメリット・楽しさを伝えていく取組を検討していきます。
3	離婚率が高いとか、保護率が高いとか、そういった背景に原因があるのではないか。	離婚率、保護率ともに、大阪市、札幌市が他の政令市に比べて高く、合計特殊出生率が低いという状況にはありますが、その他の都市では、特段の傾向は見受けられません。
4	若い人が出ていっても、戻ってきてくれれば良いだけではないか。20代で東京にでて色々な経験をして、例えば30代で戻ってくることは悪いことではない。北海道出身の人は、地元愛が強く、戻れる場所があるなら戻りたいと思っている。	一度、道外に出た若者が戻ってきてくれるようUJターンの推進などの取組を推進します。 20代については、道内での就職を希望しながら、やむを得ず就職で道外に行かれている方も多くいる状況にあります(理系:道内希望62.5%→道内就職48.8%)。
5	多様性を許容しない地域からは人が流出する。結婚の強要など、古い慣習があると、地方から都会への方が移動してしまう。	Well-being指標には「地域社会の寛容性」という項目を入れており、指標を活用した取組を検討していきます。
6	人口減少対策に関する札幌市のビジョンを伝える必要がある。こんな状態のまちにしたいというイメージがない。	札幌市の総合計画に記載する10年後の姿を目指すべき将来の姿として本書に記載します。また、目指すべき将来像を伝えていく取組を検討します。
7	単身者がこれから増えてくることへの対応が必要。単身高齢者で問題が発生してからでは管理コストがかかることから、中高年の段階でケアしていくことが大事	単身高齢者向けには、生活面での支援として、「あんしんコール」、「配食サービス」事業等が挙げられるとともに、「シニア世代の生活便利帳」というパンフレットを作成しています。中高年段階でいうと、50歳以上から参加できる「札幌シニア大学」や、60歳以上から利用可能な「老人クラブ」、「おとしより憩の家」と社会的なつながり作りに取り組んでいます。
質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり		
8	企業が社員に対して第3子の出産一時金など出産へのインセンティブを与えている。育児休業の比率が低いことについても、減税など企業へのインセンティブが必要	育児休業等取得助成事業による企業へ育児休業等の取得を促しています。
9	育児休業の利用率の高さなど、自治体や大企業が中小企業などにそういった姿勢を見せて、社会の雰囲気醸成していくことが必要	働き方改革・人材確保支援事業や男女がともに活躍できる環境づくり応援事業による優良事例を発信しています。
10	以前に比べて札幌の状況は育児休業等、前進しているが、依然として札幌は非正規が多い。非正規を正規に転換し、安定による安心感も重要である。	ワークトライアル事業により非正規から正規への転換を図っています。
11	長時間労働に起因して、男女の家事時間に差がある。育休後も家事を男性がやってくれるかも重要	働き方改革・人材確保支援事業や男女がともに活躍できる環境づくり応援事業による優良事例を発信しています。
12	子どもが体調を崩したとき、特に保育園の通い始めの時は、何日も休暇を取得する必要が出てくる。結果、有給休暇がなくなったり、周囲への申し訳なさで、仕事をやめざるを得ない状況であったり、パートの仕事に変えたりする。	働き方改革・人材確保支援事業や男女がともに活躍できる環境づくり応援事業による優良事例を発信しています。
結婚・出産・子育てを切れ目なく支える環境づくり		
13	子育てに際しては、居住スペース、住居が非常に重要	子育て支援専用市営住宅(東雁来団地)の設置、市営住宅における特定申込枠の拡充(若者世帯・子育て世帯のみが申込みできる特定申込枠として設定)、抽選優遇措置対象者の拡充(小さな子どもがいる世帯と若者夫婦世帯)などに取り組んでいます。
14	女性の10人に1人は産後うつを経験している。両親が近くにいない、高齢などの理由でサポートを受けることができないことも多く、産後の支援は非常に重要	札幌市の産後ケア事業としては、宿泊型、日帰り型のみであったところ、訪問型も令和6年度中に導入します。
15	産後のケアとして、家事代行など在宅でのサポートが必要。第2子以降の場合、第1子のことも考えると産後ケアの施設にいかずに在宅でサポートがあることが重要	札幌市の産後ケア事業としては、宿泊型、日帰り型のみであったところ、訪問型も令和6年度中に導入します。
16	母親へのケアに目がいきがちだが、父親の産後うつへのケアも重要	父親の産後うつに特化した事業はありませんが、地域子育て支援拠点事業や父親による子育て推進事業により父親の交流の場づくりなどに取り組んでいます。
17	子育ての苦労や辛さに関する情報ばかりがあふれているので、子育ては楽しい、子育てのプラスの面を発信する必要がある。	目指すべき将来像、子育てのメリット・楽しさを伝えていく取組を検討していきます。
若い世代に向けたアプローチの強化		
18	未来創生プランの方向性は問題ないが、プランの内容をはじめ、いかに若い世代にアプローチできるかが重要	様々なツールを通じて若い世代に発信していくことを検討していきます。
19	札幌の良いところを市内、市外の人に伝えきれていない。	様々なツールを通じて札幌市の魅力を特に若い世代に発信していくことを検討していきます。
20	価値観はなかなか変わらないので、小さいころから、子育ては楽しみもたくさんあるなどイメージをもてるようにする。	妊娠、出産についての知識の習得をはじめとするプレコンセプションケアを推進します。また、目指すべき将来像や、子育てのメリット・楽しさを伝えていく取組を検討していきます。
人口減少適応プロジェクト		
21	外国人材に選ばれる環境という視点は重要。人材確保、観光、国際都市などで非常に大事	多文化共生等の推進、外国人に向けた情報発信、国際人材の育成などの取組を推進していきます。